

淡海生涯カレッジ大津校の思い出

大津校修了生 石川 修

淡海生涯カレッジ開設20周年目を迎えたこの機会に、このような伝統ある淡海生涯カレッジで学習できたことに感謝し、修了生の一人として、大津校の思い出や自分にとってのこの淡海生涯カレッジの意義についての拙文を記してみようと思います。

私は、大津校の平成24～26年度の講座を3年連続して受講する機会に恵まれました。毎回の講座の楽しさとその時の感動を今も鮮明に記憶しています。まず、問題発見講座ですが、平成24年度には、近江の原風景を基にした講演、酒造見学と和菓子作りやお茶席の体験、堅田の歴史探訪、仰木の里山散策と成安造形大学でのワークショップ、高島市針江地区でのかばた見学と各種体験学習がありました。いずれも、このカレッジを受講しなければ経験できないような貴重な体験と新しい発見ばかりでした。平成25年度には、山間地農業と食文化、比良の赤シソジュース、琵琶湖の魚と水産業についての講演の他、ローザンベリー多和田での見学と体験がありました。後日、受講生仲間のグループで、山間地農業と食文化について講演された西澤氏が営むレストランへ行き、朽木の山菜料理を味わって交流を深めたことも楽しい思い出です。平成26年度には、トチノキと森についての講演、吾妻川付近での草木染体験、古紙再生工場見学、沖島での漁業や地域おこしについての見聞がありました。私は、古紙再生工場見学を契機として、企業の環境経営について学びたいと思い、その後、環境にやさしい事業活動を紹介する選択講座を受講しました。

実験・実習講座については、諸般の事情で一部出席できない日もありましたが、堅田高校での音楽を聴きながら団扇に描く芸術表現実習、堅田探訪、郷土料理体験、落語や詩語り等を通して言葉の芸術に触れる講座、そして膳所高校での周辺歴史散歩、日本建築鑑賞の現地解説、身近な水の化学的分析、葦笛づくり、ヨシノボリ類の顕微鏡観察、牛乳パックや反古紙での書作品作成の講座に出席できました。当時の実験・実習講座の資料や作品を今も保管していますが、それを見るたびに、昔の年齢に戻った気持ちで楽しく受講したことが思い出されます。いずれも、自然との共生や暮らしについて考えさせられる充実した講座内容で、先生方の大変な事前準備と熱心な説明には、感謝の念で一杯です。

理論学習講座は、滋賀大学での土曜特設講座を受講しました。私は、琵琶湖や環境についての理論的な学習経験がなかったので、毎回興味深く受講しました。講義では、琵琶湖や環境についての個々の問題点にも触れ、その解決策について自分なりに考えてみたりしたこともありました。熱心に質問される受講生もいて、環境への関心の高さを感じました。また、環境学習や生涯学習についての講義もあり、学習成果の活用について考える機会ともなりました。豊かな自然を次世代に引き継ぐためにも、淡海生涯カレッジでの学習成果を周囲の人や若い人たちに伝えることができる活動をしていきたいものです。諸般の事情でグループ学習に参加できなかったことは残念です。

私は、琵琶湖がある滋賀県に転入してから随分永くなりますが、大阪への遠距離通勤をしていたこともあり、平成24年に43年間のサラリーマン生活に区切りをつけた時には、地域のことがわからず、知った人もいないという状況でした。そして、退職後の人生についていろいろ考えていたときに、偶然、淡海生涯カレッジ大津校受講の機会に恵まれました。

た。従って、この淡海生涯カレッジは、私にとって退職後の最初の貴重な経験であり、次の3つの点で、退職後の生活を有意義なものにする源になったと思っています。

第1に、環境学習を通して、地域社会を随分と理解することができたと思います。平成24年度には、問題発見講座が堅田公民館で、実験・実習講座が堅田高校で行われ、いずれも私が住んでいるところの近くでしたが、私にとっては全てが初めての見聞でした。環境先進県である滋賀県では、琵琶湖環境の再生を目指して「マザーレイク21計画」が策定され、その実現に向けた多くの取組が進められていることも知りました。また、この淡海生涯カレッジでは、講義のみならず、見学や実習などの学習形態による学習機会がありましたので、実際に見聞しながら、地域を理解することができました。そして、継続的・段階的に学習していくシステムであるため、長時間でしたが、最後まで興味をもって受講することができました。

第2に、この淡海生涯カレッジ受講により、いろいろな職歴や年代の人たちとの交流もあって、貴重な経験をすることができました。受講を重ねるにつれて顔見知りも増え、雑談をする機会もできましたが、勉強意欲旺盛で主体的な活動をされている方が多く、随分と刺激になりました。淡海生涯カレッジ修了後の社会参加について模索中のところ、修了生仲間から誘いを受けて活動に参加したこともありました。例えば、こだわり滋賀ネットワークの会員として、環境こだわり農業の生産者と消費者をつなぐ活動は、現在も続けていますが、修了生仲間からの誘いが動機です。社会参加の経験がなかった私にとっては、修了生仲間との交流は大変貴重なものです。

第3に、この淡海生涯カレッジでは環境について学習しましたが、環境学習を含む生涯学習や地域活動について考える契機ともなりました。私は、地域社会への帰属意識が希薄であったことを反省するとともに、社会との関わりを通して自分の生き方や考え方を向上させていくことが重要なのではないかと考えるようになりました。そして、生涯学習はスポーツ活動、文化活動、趣味、レクリエーション活動、ボランティア活動等の中でも行われる旨の記述を見たことがあります。今後、環境と併せて他の地域活動にも発展させていくことが自分の課題の一つであると思っています。

このように、淡海生涯カレッジでの学習は自分の生き方や考え方に変化をもたらしたと思っていますが、更に、学習の成果を今後の生活や活動にも生かしていければ、と考えています。このようなすばらしい学習機会を提供していただいた教育委員会や実施機関の方々に心より感謝申し上げます。

(平成27年8月記)

「淡海生涯カレッジ」を受講した思い出

大津校修了生 戸田 博通

私は8年前、大阪から大津市に移り住んできました。そして、滋賀の素晴らしい自然環境と琵琶湖の美しい景観を前にして、環境問題や大津の歴史と伝統文化などを学びたいと思っておりましてところ、偶然に、大津市役所で、「淡海生涯カレッジ大津校」（環境人になろう）の案内書を見て、是非受講したいと思い、妻と申し込んだ次第です。

私は、この淡海生涯カレッジが、公民館、高校、そして大学の三者が連携して、私たち一般人に学習の機会を与えられると云うのは、とても素晴らしい有意義なことだと思いました。

公民館での様々な興味深い講座の中で、大津市無形文化財指定の「草木染及び組紐」が思い出されます。作業工房を訪れ、140年以上も守り続けられた歴史的な伝統工芸を見学して、このような貴重なものがこれからもずっと廃れることがないように、願わずにはいられませんでした。

次の県立高校では、どの高校でも講義のために、先生方がその準備に大変努力され、私たちはその熱意ある講義を受けることができました。特に、実験・実習講座で、顕微鏡を覗いてヨシノボリの分類をしたこと、また古代の琵琶湖と現在の琵琶湖の藻類を顕微鏡で比較、観察したこと等、興味深く学んだことを思い出します。

滋賀大学では、毎回の講義を通して琵琶湖の自然環境をはじめ、滋賀の食育文化や、自然環境を維持するためのコスト等について、いろいろと奥深く学びました。「知らない事を知る」と云う有意義な時間を過ごすことができました。この頃には、顔なじみも増えてお友だちができ、そしてまたグループ活動では、湖北の方まで出かけて、滋賀の『おこない』について調査し、発表したことも大変良い思い出です。

淡海生涯カレッジで学んだ知識と経験は、私にとって人生の励みとなり、活動のきっかけとなりました。現在、琵琶湖博物館はしかけ「里山の会」、環境フォーラム「菜の花の会」龍谷の森「里山保全の会」等で自分のできる範囲内で活動しています。

淡海生涯カレッジにまなぶ

草津校修了生 篠部 治男

私は65歳で定年を迎え、人生の節目の一つに「生涯学習」の大切さを考える良い機会にと、“学ぶ つながる 活かす”の淡海生涯カレッジ草津校に2013～14年の2カ年を参加させてもらいました。

各年とも、自然・環境・文化・生活・健康・食等について、関心、具体的な学習テーマで、3回の問題発見講座からスタートし、市内の公立高等学校現場での実験や実習を中心な手法での臨地学習講座は、理解しやすく、実に興味深く、楽しい体験、体感の時間帯でした。特に、当該校の先生や生徒の皆さんの協力、応援を得ての一緒に学習の場は、現行の教育の姿を少し垣間見ることが出来て、大変貴重な思い出になりました。

また、10回の滋賀大学での特設講座は、体系的に基本事項から専門的な学習プログラムが用意された理論学習の場では、むずかしい課題も残すものもあったが、実に有益で参考になる講義ばかりで、久方ぶりに学生気分にならせてもらい、若々しい気分で最高の体験が出来ました。大津校の仲間たちとの自主グループでの話し合い、議論交流の時間は、大変楽しい意見交換ができ、印象に残った一コマでした。

難しく考えずに、これからも少しでも役立つ様なボランティア活動として、自主的に実践活動へ参加して、一市民として楽しい暮らし方に努めていきたいと考えています。

最後に、企画、運営前面にわたり、大変お世話を頂きました関係者、事務局の皆様の方々、そして同行させて頂いた参加者の仲間の皆様、終始楽しく、有意義に貴重な体験ができましたことに、心から感謝とお礼を申し上げます。

淡海生涯カレッジに参加して

草津校修了生 高岡 継子

生涯勉強と言われ何か学びたいなと思った時に、平成23年度初めて受講させて頂き、続けて24年度も受講しましたが、地域のお役を頂き、なかなか出席できなく修了することが無理でした。

平成25年度はやっと役も終わり、今年度は頑張ったとの思いで受講しました。

自分の思いがかなったのか、各学校での学習も楽しく、思い出の残る作品もあります。

またグループ学習では、テーマ「滋賀の風土と伝統を守るためには」では、大津校の熱心な方がおられ、私の町の祭りにもグループの皆さんで見学に来てくださって、発表する機会ができ、思い出が残る学習会でした。

また、滋賀大学での講義は少し難しいところもありましたが、大学の講義はこのようなものかと良い勉強にもなりました。

初めて修了証も頂き、私にとっては意義のある楽しい勉強をさせて頂きました。

何とか続けてと思い、26年度も受講申込をして頑張っていたのですが、途中けがをしてしまい残念でした。

☆ 俺が 俺がの が をすてて
お蔭 お蔭の げ で暮らせ ☆

- ・平成20年度の淡海生涯カレッジ湖南校に入学を許可されカレッジ生徒スタートをしました。
テーマは『住みよい暮らしと豊かな環境づくり』
～私たちの身近な暮らしを取り巻く健康の社会、文化などについて学び、
住みよい暮らしと豊かな環境づくりについて考えてみませんか～

定年退職をしレカディア大学で2年間お世話になり、授業で総合型地域スポーツクラブの事を学び、我が湖南省に無いので色んな方々の協力を頂き2年間の設立準備期間を経てついに湖南省ちよいスポクラブをお蔭さまで立ち上げる事ができました。

- ・石部高等学校でのAEDの講習会その後、毎年7月に我がちよいスポクラブで開催してます。



- ・甲西高等学校での自分の体力を知ろう後、同じく年に2回体力測定をしています。
前回との比較表作成し各自に配布してます。



- ・県立国際情報高等学校でのソーラー時計を作ってみようの作品、今でも大切に使用してます。
学校の場所も知りましたし、初めて中に入りました。
- ・立命館大学での学食での食事タイム楽しみました。
世界報道写真展毎年見学させていただいています。
- ・次年度も是非参加させて欲しいとアンケートに記入

☆ 明日ありと思う心の仇桜
夜半（よわ）に嵐のふかぬものは。 ☆

- ・平成21年度 淡海生涯カレッジ 湖南校に入学許可
20年度は3回欠席をしましたが、今年は皆出席を目指す。
- ・薬膳料理をつくろう
一番苦手な分野でどうなるか心配しましたが、皆さんの協力で楽しい一時を過ごせ美味しく頂きました。甲南高等学校の先生方有難うございました。



- ・ 信楽高等学校での皮細工今も大事に飾ってます。
- ・ フラワーアレンジメント心配しましたが出来て良かったです。初めての体験でした。自治会等で企画し皆さんに喜んでいただいています。

- ・ 立命館大学での講座
ここで素敵な出会いができました。
伊坂先生。
一 十 百 千 万 で健康
藤田聡先生
バンド(レジスタンス)運動

伊坂先生より習う

一	一日1回自分をほめる。
十	一日10回腹から笑う。
百	一日100回深呼吸
千	一日1000文字書く。
万	一日10000歩

湖南省が発行している ルネッサンス2010 春号に開催結果が掲載されました。淡海生涯カレッジで学んだ事は、すぐさまちよいスポクラブで実践しています。

☆ して見せて 言ってみせて 聞いて聞かせて
やらせてみせて ほめてやるのが 人を育てるコツ。☆

- ・ 平成22年度 淡海生涯カレッジ 湖南校に入学許可 平成23年～平成26年参加
トータル7年間の入学をさせて頂き、その間1年はお手伝い役で参加。
テーマは『健康で生き生き癒し生活』
～健康で生き抜くための『技』を知ろう～



- ・ P/Cでの講座。色々教えて頂いてその後のP/C使用に大変役立ちました。
- ・ 収穫に参加。甲南高校の生徒さんが管理して頂き有難う。
こんな立派な大根はじめてです。楽しかったです。
- ・ 寄せ植え体験。作品を頂き玄関先に飾り楽しませて頂きました。
- ・ 湖南省ちよいスポクラブと立命館大学との連携
大学での授業後にアンケート調査で体力測定参加協力募集でOKを出しておく。
スポーツ健康科学部の調査研究に少しでもお役に立てばの考えで参加協力をスタート
マシントレーニングに参加週3回8時～9時まで12週間
その間 食事調査や歩行・バランス測定にも参加
空き時間にセラバンド運動にも体験参加
1回も休み無で参加ができました。
先生方・生徒さん大学院生さんと大変親しくなりクラブ運営等到大変助かっています。



- 藤田先生に講座を開いて頂き、修了証を発行して頂き各地域でバンド教室を開いています。
- ニュースポーツも取り入れほうぼうから指導依頼が来て参加しています。
- カレッジで習った事がすぐに役立ち大変助かっています。
- ストックウオーキング・パラシュットで一つの輪



• 湖南省スポーツ推進計画
 ずっとここに
 暮らしたい！
 スポーツで
 ”つなぐ”
 きらめき湖南
 平成26年(2014年)12月
 冊子発行



- この推進計画作成にも参加
- カレッジで習った事を実践してます。



- ジュニア ゴルフ・ボウリング教室開催
- 朝の挨拶運動
- 防災訓練 ダンボールハウス作成
- 宿題教室開校 夏休み・冬休み
- 新春ウオーキング 毎年1/3PM開催



- ペルー料理作成体験
- 下田焼き作成
- カレンダー作成 甲西高校書道部



- 平成23年(2011年)2月16日
平成22年度滋賀県社会教育部
シンポジウム
『社会教育を通じた人づくり』
パネラーとして参加
分科会
学びを通じた人づくり
パワーポイントで発表



色んな方との出会いや知らなかった事や場所。体験や習った事をすぐに実践できる場所。少しでも地域でお役立て出来ればの思いで、カレッジに参加しています。参加するからには1日も休まず受講を目指しています。



- 平成27年 甲賀校
8年目の参加
『郷土の知恵と技を学ぶ』
～新しい自分づくりとまちづくり～

老いを跳ね飛ばす淡海生涯カレッジ校

湖南校修了生 山形 範子

私が「淡海生涯カレッジ校」を知ったのは、13年前にレイカディア大学へ入ってからです。一年、二年生の二百名以上の大教室で、ホームページ十名募集。ペとパの勘違いで、パソコンを教えてもらえる～。十名の言葉に身体はバネのようにはじけ、後ろからそっと抜け出し十名の中へ入れました。一回目の講義の時、男性達はパソコンをシャカシャカ打っているの、「何故パソコンが出来るのに習うのですか?」「ホームページは初めてなので・・・」「エッ!ホームページって・・・?」宇宙語のような言葉で、チンプンカンプン、しまった～(>_<) それからが大変、一カ月前に買ったパソコンを打つのに本を見ながらだと中々出来ないの、簡単な童謡を歌いながら、少しずつ打てるように。やっとHPクラブの先輩のHPを見ると、生涯学習のマスコットで、マナビイの可愛いミツバチを見たのがつい昨日の事のように思い出しました。そして昨年レイカディア大学の「びわこシニアネット」のホームページの更新当番で、集めたパンフレットに、淡海生涯カレッジ湖南校があり、アップしてから申し込みました。正直いって難しかったらどうしよう、不安が一杯でした。受講の手引を頂き、後ろを見たらマスコットのマナビイが、13年ぶりに見て、不安が飛びました。

初めの三回は石部まちづくりセンターで。

一回目は、地域おこし協力隊で「湖南省はな～んにもないのが特徴のまちです」から始まったが、どっこい、魅力的な所を探し、情報新聞を作り地域に発信し、テレビ・新聞でも紹介されたとか。若い力って素晴らしいと感じました。

二回目は「男も女も輝いて生きる」の講義で、かきくけこ。かは「変える」、きは「強調」、くは「工夫」、けは「見識」、こは「行動」で、男も女も考え次第で、老後を生き活きと乗り越える。

三回目は「朝ご飯はたべてますか」で、朝食の大切さで、活動エネルギー、脳のエネルギーでかかせないし、身体に良いレシピをプリントしてくれたので作りました。四回目は「共楽茶房」毎日近くを通っているのに知りませんでした。「地域で共に暮らし共に働くを応援するNPO活動」の、講義をしてくれた方は知っている方でした。小さな石部に地域、高齢者、障がい者グループの事業がある事は知っていたが、六つもあるとは知りませんでした。

次は高校で講義です。

甲西高校の書道で、世界に一つのカレンダー作り。好きな字を書き、最後に一人々に着いた書道部の高校生から好きな字を言うとプレゼント、私は自分の名前の「範」を言うとビックリ、何書というのか忘れたが、書き順がシツチャカメツチャ、だが字には不思議な魅力が。初めて知った書き方でした。

水口高校では、世界の料理を作って食べたり、甲南高校では野菜植え、卒業してから野菜の収穫で沢山頂き嬉しい悲鳴。

立命館大学は七回行きましたが、難しかった講義は省きます。有酸素を取り入れた健康バンドや、介護に頼らない体力づくり、これからの身体の動かし方を習いました。今まで、

地域でも椅子に座って健康バンドをやっていましたが、今回は座ってやるのを教えて頂きました。若い学生を見ると、もっと背筋をちゃんとしないと、良い刺激を受け、嬉しかったのは学食で、学生に交じって安くて美味しいお料理を頂いた事でした。

湖南校で知らなかった方と友達になり、昨年からはじめた水彩画を一緒にやっています。高齢化で、年と共に全速力で、老婆への道へまっしぐら、日が飛ぶのが早すぎる～。あの、それ、あれや、難聴、足腰痛、ショックだったのは、ペットボトルの蓋が開かなく若いお兄さんが開けてくれた事だった。知らず々老いがかぶさり確実に六〇代とは違う体の変化に戸惑いが。淡海生涯学校は、ワクワクドキドキの刺激があり、新鮮な気持ちにさせ、老いを跳ねとばす学校のように、これからも参加させて頂きたいと思います。沢山のシニアの方達も大いに参加し、元気な老後を送りましょう。健康で病気にならず、痴呆症や寝たきりにならないよう、保険証を使わず、これからの長いシニア生活を、元気に過ごしたいと思っております。最後に可愛いマスコットのマナビィのキーホルダーを何処かで売っていませんか。携帯やカバンにつけ、考えたくはないが、いつかは身体が動かなくなった時、マナビィを見て力を頂きたいと思います。遅くなりましたが、二十周年、おめでとうございます。

更新当番でまた、今年の淡海生涯カレッジ甲賀校と草津校をアップし、甲賀校に申し込みをしたが、定員オーバーで抽選に外れ、草津校にまだ余裕があると紹介され、現在は草津校に通っています。天下のパナソニックで、電気以外に、地元の新鮮な野菜を使って、社員食堂に取り入れ、安く美味しく提供していました。一般が食べに行けないのは残念。昼食の、新鮮な野菜を取り入れたお弁当がとっても美味しかったです。湖南農業高校では、七時に集合、ハヤッと思ったが、早い時間にあお花を摘み、染色体験で青から赤に染まり最後はブルーに素敵なショールが出来ました。

淡海生涯カレッジオブザーバーの立場から

彦根校受講生・オブザーバー 赤木 和代

【1】「思い出」冊子

今手元に平成 19 年から 26 年の 8 冊の淡海生涯カレッジ彦根校の「思い出」冊子があります。それぞれの「思い出」の中には、受講生の眼の輝きや笑顔の写真が目に入ってきて、8 年間の重みを感じます。



【2】段階的系統的学びのシステム

オブザーバーとなるまでの平成 17 年から 18 年は、私もリピーター受講生の 1 人でした。なぜ、2 年続けて受講したのかというと、生涯カレッジの趣旨である「学び」を地域社会に結びつけて活動するという考えに至らなかったのです。もう少し「学ぶ期間」が必要だと思ったのです。1 年目は自分のために、2 年目は家族のために学ぼうと考えたのです。その後地域社会への活動に繋げようと思いました。そして、「学びの仲間」とコミュニケーションを取り、共に多くのことを学びたいという欲求に駆られました。

このことについて今考えてみると、生涯カレッジの理念に挙げられている比較的長期的な成人のための学習支援のシステムが、成人受講生の興味・関心に適確なものであったことを示していると言えます。「問題発見講座」→「実験・実習講座」→「理論学習講座」の体系的系統的学習は、段階的な満足を与えるものであったと言えます。よって、リピートしても新たな学習の結びつきを感じられるようなカリキュラムの組み立てが常に計画されるという利点があります。特に彦根校の場合は、オブザーバーも加わり、反省点をふまえ意見交換をしながら、次年度の計画に関わることができます。

【3】講座から思うこと

19 年度の学習テーマは、「健康な生活を送るために～家族や地域の仲間と共に心豊かに生きる～」でした。問題発見講座「心の健康」清凉寺の座禅・写経・精進料理体験は、自分を見直す時間が持てました。

20 年度学習テーマは、「自分や周りの人たちが健康な生活を送るために～家族や地域の仲間とともに心豊かに生きる～」で、問題発見講座の「オブザーバーによる地域活動紹介」では、彦根元気計画 21 のボランティア活動の紹介や折り紙サークルによる折り紙体験、NSCの活動紹介とともにグループ対抗でニュースポーツを体験しました。生涯カレッジ彦根校から生まれたサークル活動による講座が持てたことは、大きな成果であり、生涯カレッジの理念のひとつの学習成果を生かすことに繋がる結果と

も言えます。また、「自分自身の体を知ろう（あなたの体力年齢）」では、それぞれの体力の現状を知り、今後の健康維持への問題提起にもなったと思います。

21年度学習テーマは、「健康な生活を送るために～家族や地域の仲間とともに心豊かに生きる～」で、20年度に続き、問題発見講座で「オブザーバーによるニュースポーツの紹介」NSCの活動が生かされました。実験・実習講座「自彊術」全5回を通し、生涯カレッジ彦根校の3つ目になる自彊術サークルが生まれました。

22年度学習テーマも「健康」に重点をおきました。「心の健康」清凉寺の座禅・写経・精進料理や県立大学での体力測定はアンケートによる人気の講座が入りました。「仲間づくり・野外炊事」では、荒神山自然の家職員の指導で、アイスブレイキングを行いました。これは、18回の講座を通じて仲間づくりをしたいという受講生の要望に応えたものでした。調理実習の講座は年々男性も積極的になっています。平均寿命が延び、ますます個々の自立が求められてきている社会の中で「食」は大事な要素であり、性別に関わらず調理をすることの必要性を感じます。

23年度学習テーマは、「健康」の継続でした。人気のある講座「自分自身の体力を知ろう」の体力測定、「心の健康」清凉寺の座禅・写経・精進料理体験、「オブザーバーによるニュースポーツの紹介」は問題発見講座に定着。特にオブザーバーによるニュースポーツの紹介は、さらに本格的に体育館を使用し、適度な運動量で皆いきいきとしていました。この年は、東日本大震災のあった年でした。毎日のテレビから計り知れない驚怖と衝撃を受け、同時に被災者の驚愕や悲哀を強く心に感じ、普通に生活していることに罪悪感すら覚えた年でした。さらに社会経済の低迷、就職活動の大学生の不安感など社会から受ける心の歪みを感じた人が多かったように思います。また、その歪みにすら気が付かずに健康を害う人が多かったと思います。このことから、いかに体の健康・心の健康が大事であることを強く感じた年でもありました。不安な世の中、しかもストレスの多い社会の中で、個々が心豊かに生きる術をしっかりと持つということが大事だと強く思いました。ブータンの国王ワンチュク夫妻のように幸福感を感じるような生き方をしていきたいと思いました。

24年度は、「健康」「健康学ノススメ」をテーマにカリキュラムが立てられました。問題発見講座に新しく文化的なことが入ってきました。「楽しいレクレーションゲーム」「傾聴と共感～介護の基礎知識～」など老後のデイサービスの体験を垣間見ることができました。リアルに学ぶことができ、介護製品の紹介や介護食の試食にも驚きを感じていました。誰もが通る道であり、偏見を持たずに利用することができたらよいと思いました。

25年度から学習テーマは、「健康」だけではなくなりました。学ぶ力は「生きる力」～健康・歴史・文化を学び、自分らしい生き方を探そう～と「生きる力」にシフトしたものになり、フィールドワークを取り入れ多彩なカリキュラムとなりました。「書に親しもう～筆伝リレーで人の心をつなぐ～」では、一文字を各グループで決め、大きな筆を持ち一画ずつリレーして書くという体験をしました。初めての試みに動揺しながら筆を持ちました。その結果、



世界でたったひとつのグループによる作品となりました。

このように各年度を振り返ってみますと、以前は学習テーマが「環境」だったようですが、私が受講生であった平成 17 年・18 年のテーマは「健康」、その後オブザーバーをしてから 24 年度まで「健康」のテーマは続きました。25 年・26 年・27 年度は、その「健康」のテーマをもう少し広げて、学ぶ力は「生きる力」、「健康・歴史・文化」などを通じて学ぶことに移行してきています。

【4】新たな生涯カレッジから地域活動へ

彦根校の特徴は、オブザーバーを置いているということです。そのオブザーバーの仲間から、3つのサークル活動が成立しています。受講生が修了した後も、仲間の集う場所がそこにあるということに大きな意味を持つと言えます。こうしたサークルが地域社会にまだ十分生かされていません。理念でいう学習機会提供機関相合のパートナーシップの確立は、公民館・高校・大学だけではないと考えます。生涯カレッジで生まれたサークルあるいは人材もその中に組み入れることにより、生涯カレッジのさらなる発展性が見られると言えます。また、それぞれの独立性が生かされるのではないのでしょうか。指導力が不足していると考えれば、応用力強化が得られる学習支援システムを考えてもよいのではないかと思います。そのシステムが構築されたならば、生涯カレッジで学んだことを発展的に社会に生かすことができると考えます。

勿論、現在の活動する場所として、健康推進課の募集する健康推進員やひこね元気クラブ 21 のボランティア、ボランティアガイド、子育て支援ボランティアなどボランティア活動の支援の場所があります。実際オブザーバーのほとんどの人が地域社会で活動されています。太極拳、金亀体操、ラジオ体操、ひこね元気クラブ 21 歩こう会などに参加して健康維持にも少なからず努めています。

今後問題となることは、従来の受講生の年齢が高くなっていくであろうということです。少子高齢化の社会を考えると、高齢者の平均寿命の延伸をまず考察しなければなりません。それには、健康寿命を伸ばすことが必要になります。つまり、健康寿命に繋がる学習の場の提供が必要となってきます。退職年齢も上がってきています。受講生の年齢も、従来の退職年齢の 60 歳からではなく、65 歳から或いは 70 歳からのカリキュラムが必要になってくると思います。

また、年金が少なくなっていくことが考えられます。受講生の負担にならないようにしなければならないと思います。そして、社会活動に繋がるボランティアの年齢も高くなることは否めません。

福祉の面から考えても、介護しなければならない高齢者が増加します。健康な高齢者が面倒を見るということが必要な時代になってくるのではないかと思います。このような現状から、今後早急に、健康寿命を伸ばすことに繋がるカリキュラムを考えなければならないと思います。また、認知症予防策をあらゆる面から真剣に考えなければならないと思います。今後の生涯カレッジやレイカディア大学（60 歳以上の条件）は、地域社会に対して積極的に活動できる人々への学習の場として、健康寿命の維持への高い学習の場としての位置づけを考えて行かなければならないと思います。

一歩踏み出したその時から

多くの仲間との出会いが！

平成 19 年・26 年彦根校修了生 伊藤 正敏

20 数年にわたり地域社会体育活動普及の一員として従事していたとき、「広報ひこね」での紹介記事がきっかけとなり、淡海生涯カレッジ各種学習プログラムに興味を抱きました。自ら生涯学習として地域住民のスポーツ振興に携わってきましたが、自らの健康について日常の学習・体験等を学びたいと思ったところに、「健康な生活を送るために ～家族や地域の仲間とともに心豊かに生きる～」という学習テーマに魅力を感じ、受講に踏み切りました。

問題発見講座から、実験実習講座、理論学習講座など、私にとっては講座内容には満足でした。

そうした講座の中で、「自分自身の体を知ろう」という講座でお世話していただいた、滋賀県立大学准教授の O 講師を知りました。各講座の学習の合間に話題になった、「O 講師の発案で、過去のカレッジ卒業生自らが参加するニュースポーツサークルがあるよ。」と聞き、その年の途中より参加させていただくこととなりました。

このサークルは平成 17 年に始まり、それから現在に至り今年で 10 年目を迎えます。名称も生涯カレッジ NSC（ニュースポーツサークル）となり、O 講師の縁で滋賀県立大学を会場にサークル活動を続けています。

私事になりますが、淡海生涯カレッジ彦根校は平成 19 年卒業の後、平成 20 年から 23 年までの 4 年間、オブザーバーとして受講生のお世話をさせていただきました。その後、地域の自治会等の役員に専念し、平成 26 年は新たに受講生として再度学ばせていただきました。



淡海生涯カレッジから生まれたサークルは、会員間の親睦から新たなチャレンジと意欲がわき、対外試合への仲間づくりへとつながります。

彦根のスーパーカロム大会、栗東のスローイングビンゴ大会、東近江のディスコン大会、ひこね地域総合型スポーツクラブ各大会の参加と、愛好者仲間との交流や親睦を深めています。



今後も、彦根校オブザーバーの会員（NSC）から受講生仲間へ、機会があればお誘いし、多くの仲間との輪を広げていきたいと活動中です。

自分自身で楽しみ、仲間と楽しむ時間を、自分らしい生き方を見つけよう！



私の「淡海生涯カレッジ」振り返り

長浜校修了生 棚橋 勝司

仕事々々の毎日から退いた後の生活落差から襲ってきた空虚感にさいなまれ、何かをしなければとの焦燥が募っていたときに、市の広報誌で「淡海生涯カレッジ」を知り応募したのが平成21年でした。開講式当日、知らない人ばかりの中、無知無学な自分が「何を学ぶのか？ついて行けるだろうか？」と興味と不安にワクワク、ドキドキし身体が熱くなったのを鮮明に思い出します。

受講するうちに義務教育とは違い、自ら求めて学ぶ人たちの真摯な態度と、学内の雰囲気とその不安も解消し、綿に水が染み込むがごとく、講義が心地よく身体に吸収されていく思いをしました。

改めて歴史、地理、物理、化学等々、知らなかったことがまだまだ沢山あることの驚きと新鮮さ。共に学ぶ人との交流で、今までとは違った人の輪（和）が出来、趣味、生き様に別次元の世界が広がりました。

また、鈍った頭と合わせて、なまけた身体のため健康のために、受講場所が6km以内は徒歩、20km以内は自転車通学を心がけ、町並み、田園を巡っては車では味わえない季節の移ろいを肌で感じたのも収穫の一つでした。

夢中で没頭し、気がつけば彦根校への1年間留学（??）も含め、ほとんど休むこともなく6年もの年月が経ちました。次第に「生涯カレッジ校」の人氣が高まり、ここ数年は入学するのも抽選に。さすがに留年続きの自分が、人を押しのけてまでも厚顔で新しい人にと再応募を控えましたが、うれしかったのは、理論学習講座に関しては会場の席に余裕があるため受講できるように取り計らっていただいたことです。

その他にも、受講生からの要望、希望は種々反映していただき、「問題発見講座」では印象深かった「伊吹山」の花畑の観察や、当時、このような大問題になるとは思いもよらなかった「大飯原発」の見学にと、湖北のみならず広範囲に多様な企画をしていただいた事務局のご苦労には大変感謝しています。

振り返って「淡海生涯カレッジ」が日々の充実と自分の世界を広げるに多大な影響をもたらしたことに思いを馳せ、今後も学ぶ機会を求めて自分磨きを深めていくとともに、この体験が何かに展開出来ないか考えていきたいと思います。

「知ることを続ける」をモットーに！！

淡海生涯カレッジを受講して

長浜校修了生

馬場 二平

会社を退職後趣味の登山を楽しみながら、これからも仕事をするかのように新しい技術への好奇心から、京都や滋賀の大学の技術講演会や各種団体の技術セミナーなどに参加していました。そんなある日淡海生涯カレッジの事を知り早速長浜校への受講を申し込みました。以後平成 22 年～26 年長浜校、平成 25～26 年の 2 年は長浜校・彦根校と掛け持ちで受講させていただきました。

最初は新しい友達づくりが出来ればとの単純な考えで参加しましたが、各講座ともよく企画され、楽しいフィールドワークや理科実験、大学での専門的な講義などなど、興味ある話題も取り入れて分かりやすく説明していただきました。

講義後の質問では皆さん多様な考えを持っておられ、自分も柔軟な考え方ができるようになりたいと思いました。

このような機会にもっと皆さんと知り合えたら・・・と、長浜校や彦根校で懇親会を企画しましたところ多くの方に参加していただき、楽しい時間が持てたことは大変良かったと感謝しています。その後も知り合えた方々とは時々連絡を取り合ったりしています。

事務局のご努力、ご苦勞のおかげで内容も充実し、益々人気が出てきたことを喜びたいと思います。反面、リピーターはなかなか再受講できない状況となっているのが残念です。

学習したことを実際に活用するような活動は出来ていませんが、地域でのボランティア活動を通じて、そのときどきに少しでも活用できればと考えています。